

○ととき名義考

(『民族』昭和三年十一月號、著者轉載承認)

朝鮮、京城帝國大學法文學部教授 文學博士

小倉 進平

古クカラ萬病治療ノ靈草トタヽヘラレテ居ル人參（學名 *Panax Ginseng* C. A. MEY.）ハ日本デハ古ク加乃爾介久佐・爾已太・久末乃以、近クハにんじんト唱くラノタ嘗テハ漢土又ハ朝鮮カラ傳來シタ上等品ノ判事手トモ稱シタ西洋語デハ Eng. *ginseng*, Fr., Span., Italy, *ginseng*, Pg. *ginstão*, Dan., Germ. *ginseng* ハアル朝鮮デハ古ク之ヲ Sim (「東醫寶鑑」及シ朝鮮版「漢清文鑑」) ュイヒ又印念 in-sām ュ稱シタ KLAPROTH: "Asia polyglotta" (1823) ハ、Inson, *sip* 又同氏、[「中國通覽圖說」(1832) ハ *sip*, *insom* ュアル、*sip* 又ハ *sip* ハ「東醫寶鑑」及シ「漢清文鑑」ハ *sim* ニ當ルモノナルク *insom* 又ハ *insom* ハイフマデモナク人參ノ朝鮮字音デアル然ルニ女真語デハ人參ヲ幹兒和苔トイヒ滿洲語デハ *olhoda* ュベヒ「蒙語老乞大」中ニ新羅人參ヲ *Sila-kin-olhota* (「四體清文鑑」・「五體清文鑑」) ハ人參ノ蒙古語ヲ *humon-ém* ュシテアルガヨレハ人藥ノ義) レシテアルカラ滿蒙兩語ハ同一語系デアリ支那語トハ其ノ起原ヲ異ニスルモノデアル余ガ本編起草ノ目的ハ人參ノ語原、其ノ傳來ノ歴史、又ハ植物學上ノ研究ヲ試ミヨウトスルノデハナイ、其ノ形狀ニ於テ、名稱ニ於テ、人參ト著シキ類似ヲ有スル沙參ノ一類ニ與ヘラレタ和名即チととき(又ヒルモリモ)ナル語ノ由來ニツキ一言ヲ費サウトスルノデアル沙參ハ學名ヲ *Adenophora verticillata* FISCH. レイヒ前記人參トハ全ク其ノ種別ヲ異ニスルモノデアル「本草綱目」ノ沙參ノ條下)

時珍曰、沙參處處山原有之、二月生苗、葉如初生小葵葉、而團扁不尖、八九月抽莖、高一二尺、莖上之葉則尖長如枸杞葉而小有細齒、秋月葉間開小紫花、長二三分、狀如鈴鐸、五出白蕊、亦有白花者、並結實大

如冬青實中有細子、霜後苗枯、其根生沙地者長尺餘、大一虎口、黃土地者則短而小、根莖皆有白汁云々。トアルノデ一般ガ窺ハレル、シカモ其ノ形狀ガ人參ト類似セルモノアルヲ以テ往々之ヲ以テ人參ナリト詐リ稱スルモノガアツタ、同書沙參ノ條前掲記事ノ直下ニ根ヲ説明シテ

八九月采者白而實、春月采者微黃而虛、小人亦往往繁蒸壓實以亂人參、但體輕鬆、味淡而短耳。トアルガ如キハソレデアルスノ如ク沙參ガ人參ト混同セラレタノミナラズ種々ノ點ニ於テ比較的形體ヲ同ジウスル薺危及ビ桔梗ノ如キモ人參及ビ沙參ト互ニ混同セラレ人參ノ偽物ガ盛ニ製造セラレルヤウニナツタ、「本草綱目」薺危ノ條ニ

時珍曰、薺危苗似桔梗、根似沙參、故姦商往往以沙參薺危通亂人參、云々。

トテ姦商等ガ薺危、沙參ヲ以テ人參ナリト偽稱シテ販賣シタコトヲ説キ、更ニ

葛洪肘後方云、隱忍草苗似桔梗、人皆食之、搗汁飲治蠭毒、據此則隱忍非桔梗乃薺危苗也、薺危苗甘可食、桔梗苗苦不可食、尤爲可證。神農本經無薺危、止有桔梗二名、一名薺危、至別錄始出薺危、蓋薺危桔梗乃一類有甜苦二種、則其苗亦可呼爲隱忍也。

トテ神農本經スラモ薺危ヲ以テ桔梗ノ一名ナリトナシ其ノ間ノ區別ヲ設ケナカツタヤウナ事モアツタコトヲ述ベテ居ル、其他「和漢三才圖會」ノ如キモ

朝鮮人參猶來中國互市、亦可收子於十月、下種如種菜法、秋冬采者堅實、春夏采者虛軟、非地產虛實也、僞者皆以沙參薺危桔梗采根、作亂之。沙參體虛無心而味淡、薺危體虛無心而味甘、近有以人參先浸取汁自啜、乃晒乾復售、謂之湯參、不任用。

トテ世ニハ人參ノ偽物ガ甚ダ多カツタコトヲ説イテ居ル、人參・沙參・薺危・桔梗ガ互ニ其ノ形體ヲ同ジウシタコトニ關シテハ以上ノ諸書ノ外、尙ホ

(前略) 春ニ至リ舊根ヨリ葉ヲ生ズ形圓カニシテ沙參ノ脚葉ノ如シ根ノ形ハ人參ニ似テ輕虛ナリ云々 (「本草綱目啓蒙」齊荅ノ條)

沙參ハ原野ニ多シ冬春ノ葉ハ圓ニシテ積雪草ニ似テ葉莖長厚ク深綠色也春夏莖ヲ抽高サニ三尺葉莖ニ對生或多クハ三葉也亦四五葉相對スルモアリ形狀桔梗葉ニ似タリ秋梢ニ穗ヲナシ細枝ヲ分チ花下垂ス風鈴ノ様ヲナシ花瓣桔梗花ニ似テ五尖大サ四五分碧色也亦白花アリ種類至テ多シ (「古名錄」佐岐久佐奈ノ條)

ノ如キ記事ガ數限リナク有ル延喜式典藥寮諸國貢藥目次中ニ人參ノ名ガ見エテ居ルガ後世ノ學者ハ當時日本ニハ人參ノアルベキ理由ガナイ人參ハ渤海カラ傳ハツタノガ初デアル延喜式ニ人參トアルノハ沙參ヲ意味スルノデアルト推論スルニ至ッタノモ其ノ論ノ是非ハ別トシテ人參ト沙參トノ形體ガ極メテ類似シテ居ルコトヲ物語ルモノデアル

沙參ノ名ハ「本草和名」ニモ出テ居ルガ和訓ヲ施シテ居ナイ「和漢三才圖會」ニハ沙參ニ假名ヲ附シテ居ナシ「人參」トシ字音ヲ以テ呼ビコレタ和名ヲ附シテ居ラヌ要スルニ沙參ニ對スル古訓ハ詳カデナイ併シナガラ後世ニナルト色々ノ名稱ガ之ニ附セラレタ今其ノ若干ヲ左ニ掲ゲル

(1) 蔡尼ノ形狀ガ沙參ニ似テ居ル所カラ沙參ニ對シテ齊尼ノ和名タル佐岐久佐奈 (「本草和名」)、美乃波 (「本草和名」)ヲ附シタコトガアツタガ其ノ誤リタル餘リニ明白ナ事デアルカラ今特ニ茲ニ説明セヌ
(2) つりがね人參、又つりがね草、花形ノ釣鐘ニ似タルヨリイフ茲ニ人參ナル名稱ヲ適用シタノハ沙參ト人參トノ形體ガ類似シテ居ル結果デアツテ形體上ノ混同ガ名稱ノ上ノ混用ヲモ誘起スルニ至ッタ
(3) ととき、「人參和名考」ニ沙參ハ古ク本草和名ニモ出テ居ル程デアルカラ日本ニモ存シタラウガ其ノ和名ガ傳ハラヌ但シ今日俗ニとときトイフ又つりがね草トイフモノコレデアルト述ベテ居ル當時沙參ヲとときトイフシタコトガ知ラレル

(4) ととき人參、つりがね人參同様コニモ人參ノ名稱ガ侵入シテ居ル元來沙參ニ類シタモノニ羊乳トイフノガアル、羊乳ハ「本草綱目」デハ沙參ノ條下ニ之ヲ出シ

陳藏器曰、羊乳根如^ニ蓍^ニ而圓、大小如^ニ拳、上有^ニ角節^ニ折^ニ之有^ニ白汁^ニ人取當^ニ蓍^ニ、苗作^ニ蔓^ニ、折^ニ之有^ニ白汁^ニト說明シテアル通り蔓草デアル羊乳ガ沙參ノ條ニ竄入シタコトニ就イテハ「本草綱目啓蒙」沙參ノ條ニ

羊乳原別錄ニハ別條ナリシヲ時珍沙參ノ條ニ併テ一トスルハ非ナリ

トイヒ「和漢三才圖會」羊角菜ノ條ニハ

按羊乳即沙參之別名也、然陳氏所^レ謂羊乳乃羊角菜而倭沙參也以有レ蔓爲蔓人參又名倭人參和州河州信州處々山中有之、蔓生、其蔓葉共似^ニ初生蘿摩及草薢葉^ニ八九月葉間開^ニ小白花^ニ、云々

トテ羊乳ハモト沙參ノ別名デアルベキダガ陳氏ノイフノハ羊角菜ヲ指スノデアルト論ジテ居ル

「本草綱目啓蒙」著者蘭山ハ明カニ沙參ヲ以テつりがねにんじん・つりがねざう、羊乳ヲ以テつるにんじん・つるしゃじんトシ兩者ノ區別ヲ明カニシテ居ル

然ルニ問題タルととき人參ナル名稱ハ前兩者何レノモノニ對シテ用ヒラレタモノデアルカ疑問ガアル「本草綱目啓蒙」ニハ沙參ノ條下ニと^ニと^ニざにんじんトアルカト思ヘバ羊乳ノ條下ニモと^ニと^ニざにんじん^對トアル即チ沙參、羊乳ノ何レニ對シテモと^ニざにんじんデ通用スルヤウニ見エルケレドモ後者ノ註ニ對州トアルノガ著者ノ注意ノ周到ナルヲ物語ツテ居ル即チ羊乳ヲと^ニざにんじんトイフノハ對馬ノ方言デアツテ標準トナリ得ヌトイフノデアル、「俚言集覽」^トと^ニざにんじんノ條ニ

對馬ニテ羊乳つる人參ヲイフ

トアリ「本草綱目啓蒙」和人參ノ條ニ

對州ニテとときにんじん^{沙參ト云}ト云ハ即つるにんじんノ事ニシテ沙參ノ條ニ説トコロノ羊乳根ナリ

トアルノハ之ヲ證スルモノデアル、「俚言集覽」ニ
とらもち、出羽ニテつる人參ヲイフ

トアルと、らモと、きノ轉デアラウ、「古名錄」著者ハ
と、き人參ハ沙參也るのと、きハ即つる沙參也云々

トテと、き人參ヲ沙參ニ限定シヨウトシテ居ル

(5) るのと、き、又いのと、き、
豬魁蔓ニ生草木上、葉似、杜衡、根膚黒肌赤、形如、魁、又似、何首烏、切破中有、赤理、如、檳榔、有、汁赤如、豬云々

トアリ「本草和名」ニハ

豬魁一名土卵、一名黃獨、出蘇一名地椀、一名地宗、一名土芋、已上三名
出兼名苑和名爲乃止々岐

トテ豬魁ヲのと、きト訓ジ「倭名類聚鈔」ニモ豬魁ヲ爲乃止々木トシ「本草類編」ニハ

豬魁味甘平無毒、和止々支、又云伊乃止々支、二月採之狀如、小芋似、人參、日本武州多生野生

トテ止々木、伊乃止々木ト訓ズルコトヲ記シテアル、「古名錄」ハ「本草類編」ニ狀如、小芋似、人參トアルナ

ドヲ橋ニシテ

(豬魁) ハ羊乳ニシテつる沙參也と、き人參ハ沙參也るのと、きハ即つる沙參ナリ云々

とて豬魁ヲ以テ羊乳ナリトシテ居ル「古名錄」ガ豬魁ト羊乳トヲ同一物視シタコトハ如何ハシイガカ、ル誤解ノ生ズルホドと、きナル語ガ古クカラ普通ノ語ニ結ビツケラレ隱然タル勢力ヲ有シテ居タノデアル
以上ハと、きナル名稱ガ專ラ沙參又ハ羊乳ニ對シテ適用セラレタ例ヲ示シタノデアルガと、きハ更ニ其ノ勢力ヲ擴張シテ他ノ植物ニ對シテモ名ヅケ親トナルニ至ッタ前述「本草和名」・「本草類編」ガ豬魁ヲと、き又ハるのと、き・いのと、きナド稱シタルガ如キハ其ノ例デアルガカ、ル例ハ古クカラ他ニモ二三アル

(1) をかととき、「本草和名」ニ桔梗ノ和名ヲ阿利乃比布岐 一名乎加止々岐 トシ「色葉字類抄」ニモ荷蘆(桔梗)ヲととき又をかとときト訓シ「俚言集覽」増補ニモ

をかととき、草ノ名、桔梗ノ古名

ナドト記シテアル桔梗ノ形狀ガ沙參ニ似テ居ル所カラカク呼バレタモノデアラウ
(2) ととき、「本草和名」ニ千歳蔓一名裏裏藤ノ和名ヲ阿末都良一名止々岐ト記シテアルコハ地錦ノ一種デ「本草類編」ニ安末川良、「倭名類聚鈔」ニ阿末豆良、「新撰字鏡」ニ甘豆良、又後ニあまかづらト稱スルモノデアツテ冬期其ノ莖ヨリ甘汁ヲ得ルヲ以テあまトイフ、蔓アルコト羊乳ニ似タルヨリとときノ名ヲ得タモノデアラウ

(3) ととき、「本草綱目」ニアル「續断」ハ和名ヲ波美又ハ於仁乃夜加良トイフ「本草綱目啓蒙」ニハ前記二種ノ和名ヲ擧グル外、今をどりこさう・をどりさう・をどりばなトモイヒ播州ニテハ之ヲとときトモイフヨシヲ記シテアル「俚言集覽」増補ニモをどりこさう(續断)ヲ播磨ニテとときト唱ヘルト記シテアル尙ホ「本草綱目啓蒙」ニハ續断ヲ説明シテ

竹林中ニ多アリ八月比舊根ヨリ簇生ス方莖兩葉相對シ圓クシテ末尖リ鋸歯アリ冬ノ中ハ高サ五寸許春二三月ニ至レバ高サ一二尺葉間ニ花ヲ開ク節ゴトニ簇リテ生ズ長サ七八分莖ヲ戴キ尺八ヲ吹ク形ノ如シ故ニこもぞう花ノ名アリ云々

トイヒ「古名錄」ニハ

原野ニ多シ冬月ヨリ叢生ス春高サ二三尺莖方ニシテ葉兩對ス形狀蘇葉ニ似テ綠色二三月葉根ニ聚リ花ヲ開、益母花ニ似テ長大也其色淡紅、或ハ白色モアリト記シテアル然ルニ「和漢三才圖會」踏草(テ漢名ヲ俗稱トシ)ノ條ニ

とき名義者

按本草時珍所謂沙參之形狀與此能合焉、此草高尺許、莖微赤色、葉似小葵、而兩々對生、三四月葉本開ニ小花、白色帶微赤、狀似人著笠躍、故俗爲躍草、其根細長ト說明シテアル「本草綱目啓蒙」・「古名錄」續斷ノ説明ト「和漢三才圖會」躍草トノ説明ガ略一致シテ居ル點カラ見テ「啓蒙」ノをどりこさう(をどりさう)ト「三才圖會」ノ躍草トハ同一物タルヲ知リ得ベク一方「三才圖會」ニ躍草ヲ以テ沙參ノ形狀ニ似テ居ルナド記シテアルノヲ見ルト日本ノ或ル地方ニ於テ續斷ヲとときト稱ヘレンハ偶然ナラヌコト、思フ

カクノ如ク植物界ニ深イ根ヲ張ツタとときナル語ノ語源ハ抑々何デアラウカ吾人ハ寡聞ニシテ未ダ之ガ説明ヲ

カクノ如ク植物界ニ深イ根ヲ張ツタととさナル語ノ語源ハ抑々何デアラウカ吾人ハ寡聞ニシテ未ダ之ガ説明ヲ以テ朝鮮語ト關係アルモノト認メヨウトスル者デアル
試ミタモノアルヲ耳ニセヌ余ハ此ノ語ヲ以テ朝鮮語ト關係アルモノト認メヨウトスル者デアル
今日ノ朝鮮語デハ沙參ヲタル (ささん) トイフ

더덕
名植沙參
(朝鮮總督府編朝鮮語辭典)

Esp. de plante dont la racine se mange comme légume. (Dictionnaire Coréen-Français)

西臘念參 A variety of *Adenophora polymorpha*—used as food. (GALE: Korean-English Dictionary)

ノ如キハ之ヲ證シテ餘リアル

此ノ語ノ古イ歴史ハ未ダ不明ニ属スルガ李朝世宗十五年(宣德六年三月)權採ノ序ニヨツテ出版セラレタ_一鄉薬集

成方〔第一
六〇
六年
三年
重西編〕ニハ沙參ヲ加徳トシテアル加ハ
〔加ヘル〕義デ朝鮮語ノ訓ガテ(3) 德ハ朝鮮字音(4) 也

デアルカラ両字ヲ合シテダムク(トロトロ)ト詮ムベク今日ノダムト全然同音アル

次イテ中宗二十一年
紀一五三七四崔世珍ニヨツテ作ラレタ一訓蒙字會ニモ夢ノ字ヲヒト訓ジ醫書東國醫書

【鑑】ニモ沙參ノヨリトシ一濟衆新編】藥性歌ニモ沙參ノ效ヲ述べ
沙參味苦、消腫排濃、補肝益肺、退熱除風

トナシ沙參ハ曰くトイフコトヲ補註シ英祖廟ノ「山林經濟」ニセ

沙參二月移植、經數年限大、作菜作脯作醫並佳、久食利人又治疝
 トテ沙參ヲ曰くト訓ジテ居ル、日本語ガ朝鮮語カラ此ノ語ヲ借用シタカ朝鮮語ガ日本語カラ取り入レタカハ別
 問題トシテ兩語ガ同一根原ニ出デタコトハ少シモ疑フベキ餘地ガ存シナイ、滿洲語 Huhuchu (沙參) ノ如キ
 モ此ノ語ト關係アルラシク思ハレル唯朝鮮ニ於ケル曰クナル語ガ日本語ニ於ケルガ如ク廣ク他ノ植物ノ名ニマ
 デ適用セラレタ例ヲ發見シカネルノハ餘程趣ヲ異ニセルモノト言フコトガ出來ル (完)

註

- (1) 「本草綱目啓蒙」卷八、古朝鮮ノ判事官タリシ者ガ持來ッタノデ此ノ名ガアルトイハレテ居ル
- (2) Japansche Encyclopaedia カラ採ツタトアル、「和漢三才圖會」人參、伊牟曾牟ニヨツタモノデアラウ
- (3) Koreanische med. Werke カラ採ツタル、「東醫寶鑑」等ノ Sim ヲ誤ツタモノデアラウ
- (4) KARROH: San koki tsou ran to sets. ou Aperçu général des Trois Royaumes. (1892)
- (5) GRUBE: Jučen-chinesisches Glossar. No. 588.
- (6) 延喜式卷三十七典藥寮「諸國進年料雜藥」ノ條
- (7) 繢日本紀聖武天皇大平十一年十二月ノ條
- (8) 貝原益軒ノ「大和本草」小野蘭山ノ「本草綱目啓蒙」ナド
- (9) 龍澤馬琴「玄洞放言」

○世界ニ蔓ルひいろたけ (緋色茸)

故 理 學 士 安 田 篤

山ニ行キ森ニ行ク時朽木ノ膚ニ生ジ居リテ獨リ其環境ニ類例ノナイ赤色ヲ呈シ能ク吾人ノ目カラ遁レ得ヌモノ
 ハ緋色茸デアル、本菌ハ學名ヲ Polystictus sanguineus (L.) Mey. ト云ヒ大正十年ニ牧野富太郎氏ガ攝津國箕